

倉橋美羽

映像作品におけるカルト宗教

：映画『星の子』と『ミッドサマー』への検証から

要旨

映像作品で扱われている「カルト宗教」は実際に存在するカルト宗教と同じものなのか。カルト宗教を描いた映画は制作側の意図や誇張、誤解などによって宗教社会的に正確な表現をしておらず、人々に誤ったカルト宗教のイメージを植え付けている可能性があるのではないか。そのような問題意識をもとに、本研究は、映画で扱われる「カルト宗教団体」がどのような要素を持って構成されているのか明らかにするため、研究対象とした二つの作品『星の子』『ミッドサマー』の各シーンから、あらかじめ設定した定義を用いて、その表現の正確性について検討した。

検討の結果、二つの作品で表現されているカルト宗教は、ほとんどが宗教社会的に正しく描写されていることが明らかになった。社会問題として未解決な事柄であるカルト宗教をエンターテインメントで扱う際には、表現の歪曲による影響で問題がより深刻化する可能性がある。そのリスクを考慮するために、制作者側には表現の正確性が求められ、実際に慎重に内容を精査して制作していると考えられる。今後は、エンターテインメントの要素として追加された表現の誇張を分析し、本当の「カルト宗教」と映像表現の関係性をさらに研究を進めていきたい。

キーワード：カルト宗教，映画表現，宗教社会学